

# 軒昂会

軒昂会会報 第20号  
 発行者 日原 雄  
 編集者 田村千秋  
 発行日 平成16年 6月  
 発行 年 3回発行  
 http://kenkokai.tes-jp.net/

会報は年3回を予定しています。  
 皆様の原稿お待ちしております。  
 頂いた方にはお礼を申し上げます。  
 原稿の送り先  
 秦野市洪沢 3-2-7 〒259-1322  
 FAX:0463-88-2967  
 E-Mail : [ctamura@ybb.ne.jp](mailto:ctamura@ybb.ne.jp)  
 田村千秋



私その後  
 小林会員  
 (原稿頂きましたので載せました)  
 実川会員

平成一十五年度総会  
 兼新年会  
 軒昂会総会は例年通りの順でとり行なわれました。  
 場所 ホテルリゾートピア熱海  
 月日 一月十七日  
 出席者 二十三名  
 会長挨拶  
 会計報告  
 前年度繰越金 四十一万三千九百六円  
 会費・入会金 七万二千〇〇〇円  
 支出 十万七千三百六十二円  
 次年度繰越金 三十八万四千五百九十四円  
 十五年度支出内訳  
 総会補填費 六六八〇円  
 会議費 五七〇〇円  
 IT接続費 二万一千〇〇〇円  
 原稿謝礼 二万四千〇〇〇円  
 通信費事務費 二万六千八百六円  
 バス旅行計画費 一万三千九百〇〇円  
 久富氏香料 一万五〇〇〇円  
 計 十万七千三百六十二円  
 尚、監査は野呂監査役にお願ひし、総会で承認されました。

「オーディオと人生」  
 小川正義  
 歌謡曲と浪花節のレコードに混じって私は珍しい物が何枚かあった。  
 それでは今から思えばのび赤盤と呼ばれるもので、クラッシュのハイオリンの小品で「愛の喜び」ウイン協奏曲やら「アラバ」火祭りの踊り「スライ」協奏曲などであった。  
 もの珍しさに、繰り返し聞いたのである。  
 これらが、私に音楽をきく快樂の芽を植え付けることになったのだった。  
 (音楽、渴望の時期)  
 音楽を聴く楽しみを覚えた私は、耳にするもの片端から手当たり次第夢中で聴き流つた。  
 シュトラウスの円舞曲、ロシニウエパー、スタナ、ズッペのオムニウム曲などなど、中学の授業で聞いた、ベトナムの「ベトナム」などなど。  
 その頃当時唯一のクラシック番組であったNHK第一放送「音楽の泉」を毎回熱心に聞き続けた。  
 「音楽の泉」は毎週日曜日朝八時から朝九時までの「楽興の時」をテーマ音楽として、堀内敬三さんの解説で行われていた。  
 私はこの放送を自作のラジオ(6CG/6ZP-21F

の三球)の裸のマグネチックスピーカーを覗きながら無我夢中に聞いたのである。  
 最近復刻版「音楽の泉」が皆川達雄さんの解説でNHK・FM第一放送で放送されており、日曜日の朝風呂で時々聞いている。隔世の感を強くすると共に、当時を懐かしく思い出している。一言余計なことかも知れないが、この番組が昨今の音楽ソースや音楽情報の溢れ返る時代に復活したことの意義については、正直にいつて今一つ分からない。  
 《オーディオ好きの原点》  
 当時私は、鉱石ラジオのレシーバーから蚊の鳴くような音を聴いたときの非常な感激が忘れられず、ラジオ作りに興味をもつようになった。  
 何も無い時代の一種の流行であったかも知れない。  
 ラジオ作りのことが、いつも頭から離れず熱中していた。  
 「初歩のラジオ」創刊号から愛読し毎月の発刊を待ちわびる状態であった。  
 田舎の近所の農家のラジオはほとんどが並四(57V・56V・12V・12Vの四球)と呼ばれるものであった。  
 それらのラジオの故障修理は、私が一手に引き受けるようになり、そのお礼に鶏卵やら野菜の現物を頂戴し、食糧難時代のわが家に貢献したのである。  
 《オーディオマニアの病状悪化》  
 その後、中学から高校に長ずるに依りて、良い音楽は良い装置で聴きたいという欲求は益々高じて止みがたくなっていった。  
 小遣いを少しずつ貯めて機器の部品購入にあてていたが、世の高級志向とデジタル化の波に追従出来なくなり、自作アンブは高校生頃の2V3Zを以って一時休戦となった。  
 その後は、物が色々で豊かとなり益々高級志向が強くなり、経済面からも太刀打ち出来ない無力感から休眠状態となった。

「オーディオと人生」  
 小川正義  
 歌謡曲と浪花節のレコードに混じって私は珍しい物が何枚かあった。  
 それでは今から思えばのび赤盤と呼ばれるもので、クラッシュのハイオリンの小品で「愛の喜び」ウイン協奏曲やら「アラバ」火祭りの踊り「スライ」協奏曲などであった。  
 もの珍しさに、繰り返し聞いたのである。  
 これらが、私に音楽をきく快樂の芽を植え付けることになったのだった。  
 (音楽、渴望の時期)  
 音楽を聴く楽しみを覚えた私は、耳にするもの片端から手当たり次第夢中で聴き流つた。  
 シュトラウスの円舞曲、ロシニウエパー、スタナ、ズッペのオムニウム曲などなど、中学の授業で聞いた、ベトナムの「ベトナム」などなど。  
 その頃当時唯一のクラシック番組であったNHK第一放送「音楽の泉」を毎回熱心に聞き続けた。  
 「音楽の泉」は毎週日曜日朝八時から朝九時までの「楽興の時」をテーマ音楽として、堀内敬三さんの解説で行われていた。  
 私はこの放送を自作のラジオ(6CG/6ZP-21F

編集後記  
 小川正義さま投稿の「オーディオと人生」を編集しながら、私もはるか昔やっていたことを思い出しました。小川様と同じ少年の頃、始めて鉱石ラジオを手にし鳴った時の感激は今も強烈に脳裏に焼き付いています。更に並四 五球スーパー オーディオの世界へとどんどん深みにはまっていきました。  
 現在は5.1ChのDVDで楽しんでいます。  
 会報20号、編集作業の関係でお届けが遅れたことをお詫びします。  
 編集担当



軒昂会会員だより  
 新会員募集中です。紹介お願いします。  
 軒昂会ゴルフコンペ最終にももない残金千四百円に寄付受けました。  
 お願ひ  
 平成十六年度軒昂会年会費二千円合計までお振り込み下さい。  
 株式会社みずほ銀行 厚木北口支店  
 口座番号 三七一  
 口座番号 二二二六九〇〇  
 軒昂会 代表者 小泉 岩根  
 上空から見たフオーラム



鷺木宿本陣跡にて

次、の宿場は教来石で、ここは下教来石と上教来石の二つの集落がある、この地区も現在では白河町にあり、サントリーの醸造所にも近く鳥原地区にはウイスキー博物館がある。  
 日本橋より百六十八キロメートル地点を通過する、総合グラウンド橋を通過して松原地区の集落に入っていく、この地区の家々の特徴は家の前に掘割を設けて水を流していることと良く剪定された背の高い植木が目立つことである。

甲州街道蒲崎から富士見峠へ  
 桜田 忠男  
 蒲崎から下諏訪までの第一段階は蒲崎から新府城を経由して富士見峠まで歩くことにした。  
 市内中心部に近い下宿を南に行くとし身延経路で静岡清水市に向かう、分岐点の諏訪横丁は昔非常に賑わった場所、物集散の荷馬車を止めておいた名残が感じられる。  
 ここから台が原宿までの区間が新府城跡だけに見えておきたかったの立ち寄り線とは離れた、新府城は武田勝頼にゆかりの城で現在の国道二十号線に沿って通じているのに対して我々が歩いて行った道は東側の段丘の高台に位置しているの南アルプスの眺望がとて素晴らしい、特に運動公園からの眺めは抜群であった。  
 やがて道路前方にこんもりと緑に覆われた小山が見えてくる、そこが新府城跡である、道路が山の地形に沿って右にカーブして上っていったところに新府城跡はある。城跡への長い石段の下に、城の由来を説明する説明板があるので読んでみる。  
 戦国時代末期が近いころ豊臣勢の攻撃を予想した武田勝頼が、甲州街道を見下ろす天然の要害七里岩の上にこの城を築いたが、結果としてはその優れた機能を確かめる実戦をする前にこの城から撤退してしまつたという、概要そんなことが書かれている。  
 級道の縁石に腰掛けて、ぶどう畑の向こうに見える三千メートル級の山々を見ながらしばしば休憩した。  
 JR穴山駅入り口を過ぎてから、国道二十号線に渡るために段丘から釜無川が流れる平地に下り台が原の宿場を目指す。三十分ほど歩いて国道に合流するがその手前に一里塚跡がある、ここには甲府より七つ目の一里塚と説明書きされていた。新しい東屋風の休憩場所もある、川の流れと対岸に広がる田園風景を見ながら歩く、やがて「台が原宿」の中心部に至り本陣屋敷跡を通過する、台が原郵便局の近くには古くからの地酒「七賢」の蔵元がある。

甲州街道蘆崎から富士見峠へ の続き

右側の視界が開けて下の谷に釜無川が見えてくる、対岸の山地は小沢地区である、河川敷の水田は殆ど田植えが終わわり、田んぼ一面に張られた水に日の光が反射してまぶしく見える、一キロメートルほど歩くと前方に国道二十号線との合流点である上教来石交差点が見えてくる、目の前に教慶寺と言う寺があり道路に沿って地蔵が何体か並べられている。

一旦国道に出たが再びすぐに旧道に入り十五分ほど歩く、上教来石山口の関所跡に到着する信州方面から江戸や甲府に向かう旅人を取り調べた場所である、甲斐、信濃の境にある国見橋を渡って長野県に入る、やがて信州側の最初の宿場である「蘆木宿」に入る。今回の最終目的地は富士見峠であるが、現在の富士見峠に最も近い宿場はこの「蘆木宿」である、この宿場は街道に沿って下蘆木、上蘆木の細長い集落となっていて、最初の下蘆木交差点、そして上蘆木交差点を通過する、蘆木宿はこの辺りが中心地であったのか、三叉路の交差点を過ぎた右側に本陣跡があり交差点の手前には曹洞宗の三光寺もある。

三叉路の交差点を右に曲がり坂道を登っていくとJR信濃駅方面に至る。この地区には昔の家並みも残り日本の道百選に選ばれたことを示す石碑も建てられている、本陣跡の石碑の前で通過を記念して写真を撮った。

日本橋より百七十九キロメートル地点である瀬沢大橋を通過してしばらく歩くと瀬沢岡があり国道は大きく湾曲して富士見町へ入っていく、峠に近い富士見交差点までは約二キロメートルだ。甲州街道歩行者最後の区間富士見峠、下諏訪間を残すのみとなった。江戸日本橋からの歩行距離も百八十八キロメートルを超え甲州街道歩行者の実績も次第に大きくなり自信もますますついてきた。

私のその後

小林守政

早いものでアマダメトレックス退社後10年になりました。退職後伊勢原から川崎市(多摩区中野島)の方へ引っ越しして9年程になります。さて、この10年を何をして来たかということについてお話ししたいと思います。残念ながらやって来たことに充実感があまりありません。

私の場合趣味とが言うことで1つの事に突っ込む事ができない、と言うか能力が無いことになりました。一応やって来たことの羅列ですが、喫茶店経営の5年間と日曜大工等を時々した最近の3年間余りのぶらぶらしてきた期間の2つに分けてお話をさせていただきます。

まずは5年間で廃業した喫茶店経営ですが、始めた動機は店経営でいるいるなお客様との出会いがでるな退屈せず、そして長い期間ほげずにいられると言う人のアドバイスもあつたこと、又自分は、料理とかは、やった経験はなかつたが、子供時代母親から食材料の買い物に姉妹以上に行かされ、買物が好きになつたこと、それと、伊勢原に住んでいた後半10年間で上記の間に喫茶店に行く機会が多かつたり、それに懐石料理の店にもたくさん行く機会があつたことなどから食べたりする事に興味があつたので第2の人生として店の開業を決意しました。

そして5年から10年以内には少なくとも2から3店舗位は持つぞという野望も持ちました。

次は開業の準備ですが10日間のコーヒースクールと実際の喫茶店2軒での数日間ずつの体験をしました。道具揃えでは浅草の河童橋の道具街、デパート等へ何度も行きました。店は退職後新築した自宅の1階で、スペースは15坪で、カウンター席5、テーブル席が22席のトータル27席の喫茶店としてはかなり広いものでした。

メニューはコーヒーを初めとする飲み物20種類以上とアイスクリーム等のデザート、食事メニューがバスタ、ピラフ、カレーライス、うどん等10種類以上であり今考えても恐ろしいと自分ながら思う程メニュー沢山でした。それを家内と二人だけでやったのですが、2年目のピーク時は1時間半も客待ちさせたこともありました。

次に経営実態ですが、開業後2年目、3年目の平成9年10年が売上げ、荒利共にピークでやつとパート収入ぐらい荒利が出てきました。世の中の景気ダウンと同様4年目、5年目と売上はピーク時の半減となり開業後5年間で残念ながら廃業しました。そう言うことで当初の夢も破れ、結果的にはもう少しアマダメトレックスさんにお世話になつていればとか、亡くなった新藤社長に退職を申しだつたとき会社をやつて見ないかと言われたこと等を見いみ思い出したりしました。店をやつて見て確かに人との出会いはありました。また伊勢原時代の人にも店まできて

頂いて、励まして頂きました。

アマダに出入りされていた。生命の外交のSさんが亡くなる直前に、二度も店に来て頂き、商売は牛のよたれ・で生命保険の勧誘の努力の話もされて励ましを頂きました。そして早くも店廃業後3年間余りとなりました。自分自身は、現状はブラブラ人生と思っていますが(他人はもうそれでいいじゃないの、と言ってくるほうが多いのですが・・・)この3年間余りでやってきたことを要約しますと

ウオーキングとゴルフの打ちっぱなしで4キログラム位減量。(5000)10000歩/毎日、ゴルフ打ちっ放しは週1回以上で体重67キロが63キロに)ゴルフはコースへ年4回位でメトロ時代よりもスコアはアップ。日曜大工・・・現実には毎日が日曜日ですが。

\*1.5坪弱の風呂場の完成。  
\*2坪のサンルームの完成。

\*店でカーペットだつた部分の5坪をオーク無垢材によるフロアの完成。  
(総計でフロアに頼むと200万円以上を半値程度で完成)

以上自分なりに退社後を振り返つての話をさせて頂きましたが、最近まだまだ、もつと何かやらねばならないものかとも思っています。昨年は軒昂会の新年会には出席できませんでしたが、今年は皆さんがどんな状況だろうと楽しみにしてきました。

以上です